

## NRPAとその年次大会について

○ 浅宮 佐知子 廣田 治久 高橋 和敏 (余暇問題研究所)

キーワード：レクリエーション運動、NRPA、NRPAコンGRESS

## はじめに

第二次世界大戦後のわが国におけるレクリエーション運動は、50年の歴史をたどってきた。しかし、レクリエーション運動に対して、必ずしも社会および一般の人々の認知度が高いとはいえないのが現状である。

やがて21世紀を迎えようとしているわが国においては、従来までの経済至上主義からの脱皮や、それに伴う産業構造の変革などを通して、真の豊かさゆとりある人間生活の実現が期待される。したがってレクリエーション運動の使命は、ますます重要となり、その運動の在り方が、より真剣に問われなければならない。

現在わが国において、レクリエーション運動推進を標榜している民間団体は、特定公益増進法人としての『財団法人日本レクリエーション協会』と、都道府県および市町村の地域協会（連盟）である。それと共に日本レクリエーション協会加盟の領域・種目別団体が、それぞれの分野から普及運動を行っている。また1997年6月、日本レクリエーション協会では〈緊急総合5カ年計画〉を発表し、その運動のビジョンをまとめた。

本学会も、研究を通してレジャー・レクリエーションの発展を目指しているならば、必然的にレクリエーション運動の発展とも密接な関わりがあり、研究に裏付けられた運動の方向性を提言する必要があるものと思われる。しかし本学会において“レクリエーション運動”そのものを論議したり取り上げた研究発表は、学会設立以来、数題に止まっている。

以上のような問題意識から、本報告の目的はアメリカ合衆国におけるレクリエーション運動の中心的民間団体である『全米レクリエーション・公園協会（National Recreation and Park Association）』—以下NRPAと略す—に着目し、その特徴およびNRPAの年次大会（NRPA Congress）参加によって得られた大会の特徴を考察し、日本におけるレクリエーション運動への導入の可能性を探ることにある。

NRPAおよびNRPAの大会概要については、江橋（元本学会会長）らが「月刊レクリエーション」や『余暇生活開発・レクリエーション総合研究所』のニュースレターなどによって、数多く紹介してきた。したがって本報告は、特にNRPAの沿革と大会参加によって得られた知見に焦点を当て、その特徴をみることにしたい。

## NRPAの沿革

NRPAの設立は、1966年といわれているが、レクリエーションや公園関係の諸団体がこの年に統合・合併したと考えるべきである。

歴史の古い団体からみると、1898年設立の『American Institute of Park Executives（AISPE）』（当初はNew England Association of Park Superintendentsであった）が挙げられる。この団体は、主に都市公園関係の専門家集団であり、アメリカの都市公園運動を促進してきた。

次は『National Recreation Association (NRA)』である。この団体は、1906年『Playground Association of America』として発足し、1911年に『Playground and Recreation Association of America』と改称、1926年にNRAと改称された。主にアメリカにおける公共レクリエーションの発展に寄与してきた。

また、1921年には『National Conference on State Parks (NCSP)』が設立された。もともと各州の景観地の資源確保を目的としていた。したがって会員は資源保護管理の専門家で構成されていた。

さらに1937年には、『American Recreation Society (ARS)』が設立された。(設立当初は Society of Recreation Workers of America であった。)名称が示すように、レクリエーションの実践専門家集団であり、軍隊・病院・専門教育・民間団体関係などの分野からの指導者で構成されていた。

### NRPA設立とその背景

NRPA設立に当たっては、上記の4団体に加えて『American Association of Zoological Parks and Aquariums』が大合併した。

もともとAISPEとNCSPは、公園運動およびその資源確保に関心があり、他方NRAとARSは、レクリエーション運動の全国的なリーダーシップに関心があった。したがって、両者にはその考え方に大きなギャップがあった。すなわち、かたや公園の管理・運営の関係者であり、一方はプログラムの企画・指導にあたるレクリエーション関係者である。自ずから別々な集団と認識されていた。

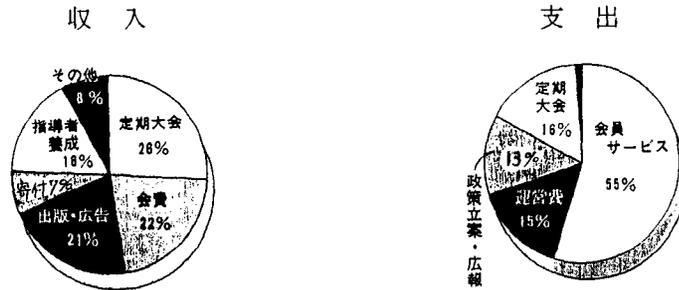
それが団結した契機は二つある。一つは、1950年代から1960年にかけての、地域レジャー・レクリエーション需要の高まりである。そしてもう一つは、1958年に法制定がなされ、1962年に報告書が提出された Outdoor Recreation Resources Review Commissionの活動であった。換言すれば、野外レクリエーション需要の高まりである。アメリカのレジャー・レクリエーションの変化に対応するには、個々別々の活動ではなく、ハードとソフトが協力した、さらに大きな力が求められたからである。

### NRPAの現在

NRPAは、単一団体ということではなく、むしろ10団体の連合と位置付けることができる。傘下団体(ブランチ)として下記のブランチがあり、それぞれ独自の活動を行っている。

- 1) American Park and Recreation Society (APRS)
- 2) Armed Forces Recreation Society (AFRS)
- 3) Citizen and/or Board Member (CBM)
- 4) Commercial Recreation and Tourism Section (CRTS)
- 5) Leisure and Aging Section (LAS)
- 6) National Aquatic Section (NAS)
- 7) National Society for Park Resources (NSPR)
- 8) National Therapeutic Recreation Society (NTRS)
- 9) Student Branch (SB)
- 10) Society of Park and Recreation Educators (SPRE)

NRPAの主な事業は、1)社会問題に対応する活動 2)市民への啓発活動 3)政府施策への働きかけ 4)専門指導者の能力向上・開発 5)知識の蓄積である。  
その事業の収支バランスの概要は、次に示す通りである。



NRPA Congressの年次開催場所およびテーマ

回	年	期間	場所	テーマ
1	1966	10. 9-10. 13	Washington, D. C.	
2	1967	11. 3-11. 7	Miami Beach, FL	
3	1968	10. 13-10. 17	Seattle, WA	
4	1969	9. 14- 9. 18	Chicago, IL	
5	1970	9. 27-10. 1	Philadelphia, PA	
6	1971	10. 18-10. 23	Houston, TX	
7	1972	10. 1-10. 6	Anaheim, CL	
8	1973	9. 24-10. 4	Washington, D. C.	
9	1974	10. 20-10. 25	Denver, CO	
10	1975	10. 19-10. 23	Dallas, TX	
11	1976	10. 17-10. 21	Boston, MA	
12	1977	10. 2-10. 6	Las Vegas, NV	
13	1978	10. 13-10. 19	Miami Beach, FL	
14	1979	10. 28-11. 1	New-Orleans, LA	
15	1980	10. 19-10. 23	Phoenix, AZ	
16	1981	10. 25-10. 29	Minneapolis, MN	
17	1982	10. 24-10. 27	Louisville, KY	
18	1983	10. 2-10. 5	Kansas City, MO	
19	1984	10. 25-10. 29	Orlando, FL	
20	1985	10. 25-10. 28	Dallas, TX	
21	1986	10. 17-10. 20	Anaheim, CA	
22	1987	9. 17- 9. 21	New Orleans, LA	
23	1988	10. 6-10. 10	Indianapolis, IN	
24	1989	10. 19-10. 23	San Antonio, TX	
25	1990	10. 11-10. 15	Phonix, AZ	
26	1991	10. 17-10. 21	Baltimore, MD	
27	1992	10. 15-10. 19	Cincinnati, OH	
28	1993	10. 20-10. 24	San Jose, CA	
29	1994	10. 12-10. 15	Minneapolis, MN	
30	1995	10. 5-10. 8	San Antonio, TX	
31	1996	10. 23-10. 27	Kansas City, MO	
32	1997	10. 29-11. 2	Salt Lake City, UH	
33	1998	9. 23- 9. 27	Miami Beach, FL	
34	1999	10. 20-10. 24	Nashville, TN	
35	2000	10. 11-10. 15	Phoenix, AZ	
36	2001		未定	
37	2002		未定	
38	2003		未定	
39	2004		未定	
40	2005	10. 19-10. 23	San Antonio, TX	
41	2006	10. 25-10. 29	St. Louis, MO	

## NRPAコンGRESの特徴

全体を通して、次のような特徴がみられる。

- 1) 会期は5日間が多く、毎年10月を中心に行われている。会場はアメリカ合衆国を東西と中央部・南部に分けて開催されることが多く、会場都市のコンベンションセンターを使用している。
- 2) 専門家集団の“教育・トレーニング会議”と位置づけられており、いわゆる年一回の祭典的な色彩は強くない。したがって、参加分科会によっては、生涯学習ユニットが与えられる仕組みになっている。
- 3) 会議の構成は、会議前の研修会、見学会、全体会議、教育セッション、研究シンポジウム、展示会、全体懇親行事、各団体のミーティングと懇親会、となっている。
- 4) 教育セッションは約250セッションあり、大別してマネージメント、自然資源・施設管理、サービス、セラピューティック・レクリエーションの4部門となっている。
- 5) 研究シンポジウムは、約90演題の研究発表が行われている。このシンポジウムは、SPREの主催であり、10ないし11部門に分けられている。
- 6) 展示会は、約400のレクリエーション・公園関係の企業、団体、機関の展示が行われている。大学関係やNRPAの各ブランチのブースもある。

## まとめ

以上のNRPAの沿革、その現状およびコンGRESの大要を概観したが、まとめてみると次のようになる。

- 1) 19世紀後半から20世紀前半にかけて発展した公園・レクリエーション運動は、社会のニーズに対応し、ソフトとハードが大合併して、現在のNRPAという全国規模の組織となった。互いにその理念のギャップを乗り越えて団結したことが、市民レクリエーションを生活化させ、社会システムとして不可欠なものへと位置づけていったといえよう。それによってレクリエーションの専門性も高めることにもなった。
- 2) NRPAの収入の約75%は、コンGRES、会費、出版・広告によるものであり、その支出の半数以上が、会員に対するサービスである。また、政策立案なども14%ある。社会の様々な問題点に正面から立ち向かい、将来に向けての積極的姿勢が伺える。
- 3) NRPAコンGRESは、年一回の総合的レジャー・レクリエーション専門家の研修機会とみることができる。それに止まらず、各所属ブランチの研修・親睦交流・情報交換の場を提供している。さらに最近ではインターナショナル・レセプションも開催され、国外からの参加者との交流なども行われている。また、400社以上におよぶ大展示会場は、その動向を把握する上からも、貴重な場といえよう。
- 4) NRPAは、まさにソフトとハードが融合した組織であり、また研究分野と実践分野を統合した組織でもある。SPREは研究者学会であり、NTRSはセラピューティック・レクリエーションの研究・実践団体である。定期刊行物(季刊)“Journal of Leisure Research”と“Therapeutic Recreation Journal”は、レジャー・レクリエーション研究において認められるものである。さらに、大学とタイアップした課程の認定も社会的認知のあるところである。この様に指導者の養成から研究・実践に至る一貫性をとることによって、レジャー・レクリエーションが市民や地域に根ざし、発展したものと推測される。